

三語 拝辞

諸の罪穢祓ひ禊て清々し  
遠つ神笑み給へ稜威の御靈を幸へ給へ  
天つ日嗣の榮え坐さむこと天地の共無窮なるべし

三山 祝辭

謹み敬つて月山大神羽黒山大神湯殿山大神の御前に申して白さく 伏して惟むみれば顕幽二界の中八百萬神あり  
八百萬神皆我大暘谷大扶桑國に居まして延喜官帳載する所二千八百六十有一社はなり孰れも神変不思議にして靈頼  
著しと雖も殊に勝れたるは奥の三山なり爰に委しく三山の由来を尋ね奉るに神代より大神この三山にいまして  
靈徳を奥羽佐信越の五州に降し給ひ 後關東八州に及ぼし遂に大日本全州に洽ねし初め五州を鎮守し給ふときんば  
五州の老若渴仰景慕し八州を鎮守し給ふときんば八州の男女欽仰子来す 忝けなくも我國は是れ天照大神の  
鎮統にして天地開闢以降皇統一系の神國月山は是れ天照大神の同胞月讀尊鎮座の神山なるをもつて神國の人神山に  
來往するは天理固より然り 羽黒山湯殿山も亦神縁を同じうす この故に地上靈域多しと雖も三山に勝れたるはなし  
三山は金銀を土と爲し珠玉を石とす甘露零ち寶泉涌く五味の藥湯溪間に迸流す 其の奥の院に至りては巒峰高く聳え  
溪壑深く下り石徑崎嶇として鳥獸も輒すく攀縁し難し 況んや人類に於てをや大神擁護の靈頼は往時獨り開祖に集る  
開祖その神徳を仰いで月山よりも高しとす かるが故に先づ月山に登り給ふ ここを以つて月山の神威日光と赫耀して  
延ては羽黒の峰に映じ延ては湯殿の嶽に輝く開祖神徳を宣揚して教化を敷行するに慈仁を體とし敬愛を用となし  
一切蒼生をして神縁を結ばしめ給ふ

そもそも三山参詣の輩は身に白袴の淨衣を着け首に蘿鬘の寶冠を戴き七五三の注連を掛け手に八房の鈴鐸を取り  
朝に江水を掬ひ日積月積の汚れを洗ひ 暮に煙嵐に嘯ひて無量の神徳を念じ眞賢木を樹て神籬を造り百取の机を設け  
千種の酒饌を供へ往昔開祖の難行を慕ひ別火の法を修し心裡の汚れを焼く夫れ瀧に浴して大神の感應を祈るときんば  
苦行を宗となし席に坐して綾瓊の神文を誦するときんば敬愛を念と爲す かくの如く實に信心を致すときんばいかでか  
幽眷を蒙らざらんやひとたび歩みを運ぶ輩は無彊の神感を得無量の幸福を受くること必然たり仰ぎても尚仰ぐべきは  
神明の幽契なり恭つても復恭ふべきは開祖の德澤なり影の形にそい響の音に應ずるが如く行者の信心を  
移すときんば感應も亦知るべきのみ禳災求福願海は深うして且つ廣し 唯願はくは末代の行者猛省勇進一世艱苦の  
行を修し三語修法の文を唱へ至誠神明を敬禮し 奉るべき者なり

三山 拝詞

綾に綾に奇しく尊と 三山神の御前を拜み奉る  
綾に綾に奇しく尊と 蜂子神の御前を拜み奉る